

おわりに

◆先日、ある全国組織所属の災害ボランティアの方から山梨県笛吹市での防災講演を頼まれました。その後、「こっちに来るつて聞いたけど、おれっちは（うちも）頼む」と南アルプス市の方からお電話をいただきました。

私は、山梨からのご依頼を絶対に断れません。何故なら、平成16年の福井豪雨時、旧今立町の復旧活動において、ひとかたならぬお世話になつたからです。

まず前述の方が、「細川さんのところが困っている。行つてやつてくれ。」と三重県の組織仲間に頼んでください、重機の一個隊が三重から今立に来てくださつたこと。さらに、山梨から直接来て重機を使つてボランティア活動をしてくれた「未来会」というグループもありました。

その結果、今立の災害ゴミはしつかり第2清掃センターまで運ぶことができたのです。その御恩は決して忘れない……だから、山梨からの依頼は二つ返事でオッケーなのです。ところで、町のゴミ収集という大役を県外の方々にお任せできたのは、福井豪雨以前に、合同研修や訓練を行つて、お互いに信頼関係ができていたからです。災害時は『事前の備え』、『不断の取組み』が大事です。

さて、今回の豪雪はどうだったのか。日頃から現場重視で物事を組み立て大切にしていたか。国・県・市町の対等な連携ができていたのか。災害時の反省だけでなく、日頃の在り様の検証が必要です。雪は消えても、教訓は残すべし！

県政報告会

3月30日(金)

時間 午後1時半～
場所 細川かをり事務所
村国1丁目2-11

※お車でお越しの際は、立正佼成会の駐車場南側に、運転席を建物に向けて駐車して下さい。

4月13日(金)

時間 午後1時半～
場所 安養寺生活改善センター
安養寺町84-42

4月24日(火)

時間 午後7時～
場所 北新庄公民館
北町54-25

★南越前町議会議員選挙が4月22日(日)

にあるため、南越前町へのこの折り込みは、その選挙後となります。よろしくお願いします。

★ラジオ「丹南FM79.1」

「県議会 夢通信」

4月21日(土) 午後4時～
(再)22日(日) 午前10時～

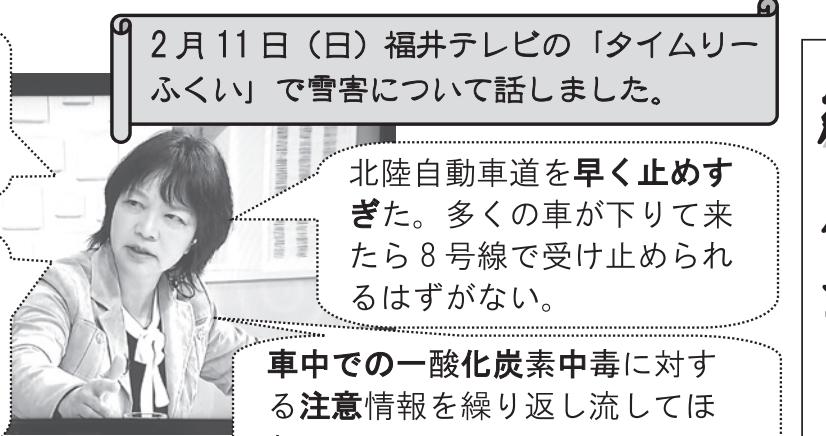
細川かをり県政報告 H30.3-4
発行：福井県議会議員 細川かをり
事務所：越前市村国1丁目2-11
TEL・FAX 42-5888

細川かをり県政報告

第38号

公共工事が減る中で土建業者の方々が少なくなった。作業の方々はフラフラだ。

雪の多い池田町や南越前町は備えが強力。平野部がどこまで体制を強化できるか。今回は予算も膨らんだ。



途中、雪害対策の集中審議があつたにもかかわらず、一般質問や予算決算特別委員会の質問が雪害に集中！



管理しているNEXCO中日本に「北陸道を止めたら困る」と言えないのか？

タンクローリーは車体が長い。交差点を広く開けないと曲がれないということが分かっているのか？

国道8号線の4車線化がいつまでたっても進まないからだ

山林の折損木、中小企業工場の破損、除雪計画見直し、道路穴修理…早急に。

など多くの課題が投げかけられました



今回のような雪の降り方では、除雪のオペレートは非常に困難です。将来に向け「AI（人工知能）などで総合的合理的に除雪指示できるシステム開発を急ぐべきでは」と提案しました。



★県道武生美山線（北町～新在家町）

これまで除雪対応の路線でしたが、水源の見通しが立ったので（パイプラインからの分水と北町側の市の消雪用水分水）、消雪設備を新在家町方向から設置していくこととなりました。まずは分水設備の工事に掛かります。

今後は、早期の全線設置に向け、予算確保を働きかけてまいります。

★農業用ハウスの撤去および再整備

約1000棟の被害が出た農業用ハウスですが、議会最終日に追加補正が成立しました。県と市町で最大2分の1の再整

備と撤去費の補助2億8500万円です。（加えて国の補助が付く見通し～3/22現在）

春先からの農作業を考えるとハウス再整備は急務ですので、予算は成立させましたが、その補助要件緩和を求めました。

細「耐雪型は価格が高い。現状復帰でも対象にするべきだ。」

県「高額なのを求めているつもりではなく『今より強く』であればいい。」

細「耐雪型のハウスも壊れている。それ以上にしなければならないのか。」

といったやり取りです。結局、

県「個別に相談、柔軟に対応したい。」

でした。

「母として祖母として、子や孫に安全で安心な未来を残したい」と反対討論を行つたうえ、女性議員の3名全員が反対でした。「議会に女性議員がもつといたら、流れが変わるかも。」と思わずに入れませんでした。

◆議会最終日に、現在国において行われている「エネルギー基本計画の見直し」に関する意見書案が、上程されました。その内容は「原発再稼働を着実に進める」「核燃料サイクルの推進」「次世代原子炉の開発」など原発推進です。採決は二十八対七で可決され、福井県議会の意見として、国に提出されました。しかしながら、採決に当たつて西畠知佐代議員が「母として祖母として、子や孫に安全で安心な未来を残したい」と反対討論を行つたうえ、女性議員の3名全員が反対でした。「議会に女性議員がもつといたら、流れが変わるかも。」と思わずに入れませんでした。

教育行政について



皆さんの学校時代の教育を、覚えておられますか？

受験勉強や体育祭、文化祭、修学旅行と言った印象の強いものは残りやすく、日常の学校生活や教育は忘れられることが多いようで、「先生の心、生徒知らず」です。子供は成長するのでそれでいいのですが、教員が学校で行う教育は、机上の勉強だけ、テストの点数を上げることだけが目的では決してありません。

例えば、ある日、私が担任していた小学2年生の児童が、下校途中、車にぶつかりました。ランドセルがクツクションになつたので怪我はありませんでしたが、聞けば、観たいテレビ番組に間に合うようにと猛ダッシュ歩いて、左右の確認なく道路に飛び出したとのこと。さらに、その翌年担任した同じようなケースがありました。

彼らには「飛び出しあはだめ」と言ったところで、何かに夢中だとそれで頭がいっぱい、注意の言葉は次の瞬間頭から消え去ります。こうなると、日ごろからの行動様式を変化させるしかありません。

テストの点数を上げることに偏り、教育行政の「売り」を作りたいという印象が強く感じられます。

学力テストの平均点が全国トップクラスであることは、素晴らしいことですか・・・。もともとは、「福井の学校教育が人間教育においてきめ細やかで、学級経営も平均的に優れており、落ち着いて学習に取り組めた」というのが最大の理由で、それこそが福井の教育のすばらしさだつたと確信しています。

学力テストの点数が良いのは、あくまでその「結果」！
お願いしたいのは、「個々の人間教育、学級経営が素晴らしい、頑張ってくれ」と、ほめ、励ますならいいのですが、「テストの点数が高い」ことのみを評価したり売り物にしたりしないでほしいということです。

「学力テストナンバーワン！」と言われば言われるほどに、それがノルマとなり、県が何を言おうが、現場サイドでは過去問をやつて点数を上げることに血眼にならざるを得ない現実です。それが行きすぎて、本来のきめ細やかな人間教育・学級経営がないがしろになつたのでは本末転倒。原点回帰を求めておられます。

彼らに共通するのは、学校の廊下をすぐ走るということでした。「走るな」と言つてもその直後、悪気なく走る・・・。これを少しでも直すことが、世間に出了ります。

彼らに共通するのは、学校の廊下をするのです。その後、私が担任した子の中に交通事故に遭う子はいませんでしたが、他のクラスの子の中に、中学卒業後バイクに乗つて交通事故を起こし、命を失つた子がいます。「小学校で、もつと叱つてやればよかった。」と今でも思っています。

またある時、やんちゃな男の子たちが、砂場で遊んでいました。「ふくふく、珍しいな。」と見ていると、間もなく泥団子を作り始めます。「むむつ。」と注視しますが、まだ口出しあはしません。そのうち泥団子の投げ合いをします。そして、泥団子を校舎に向かつて投げだした時点でおこらうつ！」としかります。

やつていい事と悪いことの境目を、経験から身に沁み込ませたいとの思いからでした。
14歳を境に、非行少年の処遇の流れは変わります。犯罪少年として刑事责任もあるか、あらためて、総合教育会議の座長で、県の教育大綱策定の責任者である知事の考え方をお聞かせください。

★「真の教育のあり方」とはどういうものか、あらためて、総合教育会議の座長で、県の教育大綱策定の責任者である知事の考え方をお聞かせください。
教育基本法の理念、学習指導要領はもちろん重要。これらに沿つて基礎基本を定着させる丁寧な教育や、社会の中でそれを活用し、目標に向かつて挑戦する真の意味で逞しさを鍛える教育が重要。

こういうことを行ってこられた教員の熱心さが本県の高い学力体力を支えており、このことを大事にしたい。

東村教育長

長文で恐縮です。
前回議会から提出した「真の教育を問う意見書」を背景に、教員時代からずつと知事に言いたかった事が、今回やつとやつと言えました。お読みいただけたと幸いです。



そのため大事なのは、学校生活の中で悪い行為を見逃さず指導し、反省を促すことであり、学校生活での日々の積み重ねが、良き社会人たる教育そのものなのです。
教育基本法に、「教育の目的」は『人格の完成』と『平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成』と書かれています。文科省は「学校の意義」を「未来の社会に向けた準備段階としての場」、「社会的意識や積極性を持った子供たちを育成する場」としております。学校は人間教育の場であり、教員は、すべての児童生徒が「健全な一人前の社会人として、幸せで豊かな人生を送つてほしい」と願い、子どもたち一人に向き合つています。
学校教育は、難関大学への進学率を上げるためにではなく、「うちの学校つて凄いのよ」と自慢するためでもなく。「子どもたち一人一人の人生がより良くなるように」ある・・・私はそう考えます。



しかし今の県の教育議論は、「突破力」、「能力差」、「受験指導」、「下位のレベルアップ」といった言葉が目立ち、「教育で新しいことをやるには、全体に影響のあるプロジェクトを・・・。」という発言まであります。

★さまざまな現場作業が福井の生活を支えるのに不可欠であるにも関わらず人手不足である現状の認識と、「福井の将来を担う人づくり」について伺います。

福井の将来を担う人づくりとは、福井に愛着を持ち地域に新たな活力を生み出す人材を育成していくこと。本県では高卒就職者の90%以上が元企業に就職し、即戦力として地域の産業界を支えている。
近年、建設土木運輸等の職業の有効求人倍率が高く人手不足の状況が続くと見込まれていることから、職業系高校では民間の土木系技術者から高度技術を学ぶとともに、土木系企業の延べ30社でインターンシップを実施し、土木分野への関心を高めている。
今後とも県内企業関係者と協議しながら職業教育を推進する。